


トピックスレポートⅡ

議員活動は「議会活動」や「地域活動」を円滑に行うため、所属する政党団体や後援会があります。また市内外の組織・団体への役員就任など、様々な話題(トピックス)があります。

7月 24



自民党富山市連遊説局のメンバーと街宣活動に参加。酷暑の中での活動でしたが、田畑代議員と市議の皆さんで日頃の活動報告と、自民党へのご支援を伝えさせていただきました。

自民党富山市連遊説局

7月 25



学校再編について市民の皆さんで考える機会です。富山市の学校をイキキと通えるカタチにするのが私たち大人の責任であり役割だと考えコミットして行きます。

地域の未来を育むワークショップ


8月 5



犯罪や非行防止を目指す法務省の「社会を明るくする運動」の一環で、富山県保護観察所の1日所長に吉本興業の芸人さんがに就任。私も保護司として今回同席しました。

社会を明るくする運動

8月 9



自民党富山市連合支部サマーセミナーが開催されました。私たちの身近な問題として、論点の把握、今後の議論の発展に資する大切な機会になりました。

夫婦別姓における議論と憲法改正


9月 25



地域住民との交流活動として芋掘り体験してまいりました。爽やかな秋晴れのもと賑やかに開催。日頃から、地域の方々の支援ご協力に、心より感謝です。

地域住民との交流活動

10月 24



コロナ禍で集う機会が失われ住民同志の繋がりが少ないこともあり、いろんな方々と再会でき、あらためて繋がりの大切さを感じた貴重な機会でもありました。

たばた裕明青空集会

プロフィール / 経歴

名前 成田 光雄
 生年月日 1969年10月15日(てんびん座)
 血液型 A型
 身長・体重 182cm・75kg
 趣味 クラブ活動
 役職
 ・富山県日韓親善協会 会長
 ・自由民主党富山市連合支部組織委員長
 ・富山市トライアスロン協会 会長
 ・(社)常願寺川公園スポーツクラブ 理事長
 ・富山工業高校同窓会 副会長
 ・自由民主党富山市連藤ノ木支部 常任顧問
 ・富山県立富山視覚総合支援学校教育振興会 顧問
 ・島用水維持管理委員会 顧問
 ・(社)三寿会 評議員
 ・保護司(富山保護区配属)

所属委員会
 ・厚生委員会 委員長
 ・議会運営委員会
 ・議会改革検討調査会
 ・富山地区広域圏事務組合議会議員
 ・富山市都市計画審議会
 ・富山駅周辺連続立体交差事業促進期成同盟会理事

昭和44年 富山市大江干で生まれる(現中部連合町内会)
 昭和57年 富山市立藤ノ木小学校 卒業
 昭和60年 富山市立新庄中学校 卒業
 昭和63年 富山県立富山工業高等学校 卒業
 平成元年 中堅ゼネコン 入社
 平成7年 大成興業株式会社 入社
 平成25年 富山市議会議員選挙 初当選
 平成29年 富山市議会議員選挙 2期目当選
 令和3年 富山市議会議員選挙 3期目当選



成田みつお事務所

〒930-0922 富山市大江干120-1番地
 TEL. 076-424-7576 FAX. 076-424-7687

e-mail. contact@naritamitsu.com
 (公式サイト) http://www.naritamitsu.com
 (フェイスブック) https://www.facebook.com/narita320/



公式サイト



facebook

第2号 [2022年1月発行]

富山市議会議員 成田みつお新聞

成田みつお エクスプレス

一人ひとりの声をかたちに

一人ひとりの声をカタチに、将来世代につなぐため
 スピード感を持ち判断力と行動で実現します。



ごあいさつ

健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。日頃から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。昨年も一昨年に続き世界中がコロナウイルスに翻弄された一年でした。新年2022年の干支は「壬寅」。冬の寒さが厳しいほど、芽吹く春は生命力に溢れるごとく、この年には新たな成長が期待される縁起の良い干支だといわれます。コロナパンデミックから2年世界はまさに厳冬でした。年末にはオミクロン株という新たな新型ウイルスが出現し油断ならない情勢ですが、新年中にはコロナ収束に道筋がつくことを期待しております。昨年は新型コロナウイルス感染対策、ワクチン接種事業にはじまり年末には「生活困窮世帯」「子育て世帯」「住民税非課税世帯等」に対する臨時特別給付金について、厚生はじめ各常任委員会で審議、本会議で可決しました。コロナ禍で影響にあった対象世帯に一刻でも早く行き渡るよう行政一丸となって進めてまいります。さて昨年4月の改選後、自由民主党会派24名の議員でスタートしましたが、2022年政策や理念を共有し同じ目標に

向かって行動できる仲間16名で、新しい会派「富山市議会自由民主党」を結成しました。市長と市議会と二元代表としての役割を發揮することが求められている現在、会派としての存在意義を見つめなおしたときに、各議員が思いや能力を存分に発揮し活躍できるような体制を整えていくことも重要な務めです。これからも市民の負託にどう応えるべきか真剣に話し合い、切磋琢磨しながら政策提言や課題に対して調査研究に取り組んでまいります。今年で市議として10年目に入りますが、これまでの経験と実績の積み上げが地域との信頼関係の構築に繋がるものと考えます。議員として国、県としっかりと連携を図り、地域住民とのパイプ役として、富山市発展のためにスピード感をもって現場重視の姿勢で市民の皆様に寄り添い、引き続き緊張感と責任感を持って全力で取り組んでまいります。

成田光雄

トピックスレポートⅠ

11月 11



とやま国際交流センターより国際交流活動を通じて県の国際化、発展に尽力された方々の功績をたたえられました。私も当センターの理事として出席してきました。

とやま国際草の根交流表彰式

1月 3



常願寺川公園スポーツクラブ祈願祭

1月 9



藤ノ木校下成人式が執り行われました。これから社会人として味わう、楽しみ、悲しみ、辛さも仲間と分かち合って欲しい。成人を迎えた皆さん悔いのない人生を送ってください。

藤ノ木校下成人式開催

■議会活動レポート 令和3年12月定例会の主な内容

令和3年12月富山市議会定例会は12月1日から21日まで21日間の会期で開かれました。令和3年度補正予算案件、条例案件、契約案件、意見書等について審議し、合わせて38議案が原案のとおり決まりました。また継続審査となっていた令和2年度一般会計、特別会計、企業会計の決算認定議案等については、いずれも認定、原案可決されました。



161億8145万余円の補正予算等を可決

①市長公約関連8億7113万円

- ・医療的ケア児保育支援事業補助金
- ・NIXSストリートスポーツパークPR業務委託料
- ・八尾行政サービスセンター移転改修工事等
- ・細入中核型地区センター移転改修工事等 他

②新型コロナウイルス感染症関連21億4738万円

- ・新型コロナウイルス感染症対策基金積立金
- ・新型コロナウイルスワクチン接種業務委託料等
- ・PCR検査委託料等 他

③その他【主な事業】14億6366万円

- ・生活保護事業扶助費
- ・児童発達支援事業扶助費
- ・放課後等デイサービス事業扶助費 他

④その他の追加補正120億6512万円

- ・子育て世帯への臨時特別給付金等
- ・住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金
- ・原油価格高騰に伴う灯油等購入費助成金等

可決意見書

下記の意見書を可決し、国会および関係行政庁などへ提出しました。

- ・ヒトパピローマウイルスワクチンの接種に関する意見書
- ・北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書

■本会議・一般質問にて

Q:危機管理全般に関する組織機構のあり方について問う。

A:藤井市長 本市では危機管理の基本的な方針については企画管理部、防災及び国民保護に関する事項は建設部、防犯や交通安全に関する事項は市民生活部などに分かれており、大規模な自然災害や重大事故などの危機事象が発生した場合などには、私を本部長とする対策本部を設置し、全庁を挙げて危機対応にあたることを基本としてきた。現在、本市と(約41万2千人)と人口規模が比較的近い、人口35万人以上の32の市ではその過半数が危機管理を専門に所管する独立した組織を設置しており近隣の自治体では、金沢市、岐阜市、松本市がこれに該当し、また富山県でも令和3年の4月に組織改正で「危機管理局」が新たに設けられている。

近年、地震や豪雨、暴風、豪雪など激甚化する自然災害のほか、鳥インフルエンザや豚熱、そして新型コロナウイルスなどの感染症、さらには北朝鮮によるミサイル発射など重大な危機事象が毎年のように発生していることを重く受け止め、危機管理対応能力のさらなる向上を図るため、令和4年度の組織改正において専ら危機管理を所管する新たな「部」の創設について条例改正も視野に入れながら検討していく。

Q:官民連携によるまちなかの賑わいを創出していくために、民間事業者をしっかりと支援していく必要があると考えるが見解を問う。

A:活力都市創造部長 市としましては、このようにまちなかの賑わいづくりは事業に関わる民間事業者が主役となり、取り組むことが継続的な賑わい創出に繋がるものと考えており、今後も引き続き、まちなかの更なるにぎわい創出のため、民間事業者が新たな計画を検討された場合には、市として必要な支援について検討してまいりたいと考える。

Q:学校給食の現状と今後について、老朽化した給食室の整備について見解を問う。

A:教育委員会事務局長 本市の小中学校の学校給食は学校にある給食室で調理する「単独調理場方式」と給食センターで調理して配送する「共同調理場方式」があり、南と北の2カ所あります。小学校では64校が単独調理場方式で、1校は共同調理場方式、中学校では単独が6校、共同が20校となっています。今後は学校施設の長寿命化計画と整合性を図り、学校再編計画の動向も注視しながら整備を進めていく必要があると考える。新たな視点に立って給食室のあり方についても検討する必要がある、例えば学校で調理した給食を他の学校に配送する「親子方式」や複数の学校の給食をまとめて調理する「グループ化」などこれまでと異なる給食室の整備方法について調査研究していく。

■新型コロナワクチン3回目接種に向けて

Q. なぜ、3回目接種の実施やその前倒しが必要なのですか。

A. ワクチンの効果が時間の経過とともに低下するからです。

2回目の接種からおおむね半年ほどで、特に感染予防効果や高齢者の重症化予防効果に低下がみられます。3回目接種を行うことでこれらの効果を再び高めることができ(※)、感染拡大や医療のひっ迫を防ぐことにつながると考えられます。また、オミクロン株に対しても、ファイザー・モデルナどちらも3回目接種により有効性が維持できるとされています。

(※)イスラエルにおける研究では3回目接種を行わない場合に比べて

入院・・・93%減 感染・・・88%減 死亡・・・81%減
重症化・・・92%減 発症・・・91%減

3回目接種などについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省「新型コロナワクチンQ&A」へ

URL <https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/>



Q. なぜ交互接種を行うのですか？

A. モデルナの供給割合が高まるからです。

2回目接種までのファイザーとモデルナの比率は約5:1となっていますが、3月までの3回目接種用として配分予定の約4800万回分は、ファイザー約2600万に対してモデルナ約2200万と、モデルナの比率が高まります。そのため、2回目までファイザーを接種していた人が3回目にモデルナを接種するケースが出てきます。

Q. 3回目接種や交互接種の安全性・有効性は？

A. 安全性・有効性ともに良好なデータが出ています。

3回目の接種で現れる副反応は1・2回目と大きく変わらず、同じワクチンを接種した場合でも交互接種でも安全性は許容されること、有効性に関しても、同じワクチンの接種・交互接種いずれも十分な効果が得られることが英国における研究で報告されています。

3回目接種後7日以内の副反応(業事承認時データ)

発現割合	ファイザー(2回目→3回目接種後)	武田/モデルナ(2回目→3回目接種後)
50%以上	疼痛(78.3→83.0%) 疲労(59.4→63.7%)	疼痛(88.3→83.8%) 疲労(65.4→58.7%) 頭痛(58.8→55.1%)
10-50%	頭痛(54.0→48.4%) 筋肉痛(39.3→39.1%) 悪寒(37.8→29.1%) 関節痛(23.8→25.3%)	筋肉痛(58.1→49.1%) 関節痛(42.9→41.3%) 悪寒(44.3→35.3%) リンパ節症(14.2→20.4%)
1-10%	38度以上の発熱(16.4→8.7%) 腫脹(6.8→8.0%) 発赤(5.6→5.9%) リンパ節症(接種後1カ月以内、0.4→5.2%)	38度以上の発熱(15.5→6.6%) 腫脹・硬結(12.3→5.4%) 紅斑・発赤(8.7→4.8%)

厚生労働省資料等より作成

■地域活動レポート

■今年もスポーツを通じ、地域を子供たちを元気にします！

私が理事長を務め日頃から応援している、一般社団法人常願寺川公園スポーツクラブは「スポーツの力で地域を元気に」を理念に2010年に設立。スポーツを通じた地域住民のコミュニティとして持続可能な開発目標(SDGs)を実現するクラブ運営を目標としています。

サッカー競技においては幼児、小学生、中学生、社会人チームが「JOGANJI富山」として活動し、地域で活躍できる人材の一貫育成に取り組んでいます。

クラブOBは高校時に県代表としての全国大会への出場や、社会人となり指導者や社会人チームの一員として再びクラブで活動しているメンバーもあり、地域を支える担い手として活躍しています。



■社会問題を考える

「教員の働き方改革」に伴い、当クラブでは「部活動の地域移行」に積極的に取り組んでいます。サッカー競技においては多くの地元中学生がクラブ員として活動。JFA指導ライセンスを保有した経験豊富なコーチ陣が競技指導を行っています。

また、県立雄山高校サッカー部にはスポーツエキスパートとして指導者を派遣し、質の高い競技指導を目指しながら、学校とも連携した部活動改革に取り組んでいます。

